

7. 桜田門外の変 (1860年)

大老の井伊直弼が、朝廷のOKのないまま反対派を押し切り、アメリカと日米修好通商条約を結び、人々から強く批判されました。

「これからは頼りない幕府ではなく、天皇を尊び、朝廷中心の体制にして外国を攻撃すべきだ！」という尊王攘夷を主張する運動が起こります。

これに対して井伊直弼は幕府の体制に反対する尊王攘夷派の人々を次々に処刑、処罰しました。(安政の大獄といいます)

これにより、幕府に対する反感が強まり井伊直弼は暗殺されました。(桜田門外の変といいます)

いやー、無礼だ、桜田門
1860年

26. 戊辰戦争 (1868年)

薩摩藩と長州藩は朝廷による政治の復活をめざし、公家の岩倉具視と協力して、幕府を武力で倒す計画を立てます。

そんな情勢の中、15代将軍徳川慶喜は、新政権になっても自分が議長になって指導権を握ろうと、あえて政権を朝廷に返上する作戦をとりました。(大政奉還といいます)

しかし、討幕派の西郷隆盛や岩倉具視は先手を打って朝廷を動かし、朝廷に「王政復古の大号令」(天皇中心の政治に戻すことの宣言)を出させ、慶喜をしめ出しました。

そして、大名たちに官職や領地の返上を命じて新しい政府を作りました。

しかしこれに不満をもった大名や旗本たち(旧幕府軍)が、鳥羽・伏見(京都市)で新政府軍と戦争しましたが、敗北します。(鳥羽・伏見の戦いという)

慶喜は江戸に引き上げ引退し、幕府のあとを任された勝海舟は、江戸が戦いによって荒れるのをさけるため、戦わずして新政府に江戸城を明け渡しました。

旧幕府軍の家臣の一部は蝦夷と呼ばれていた北海道の函館にたてこもり、会津藩(福島県)など東北の諸藩と連合して抵抗を続けましたが、旧幕府軍が降伏しました。

この新政府軍と旧幕府軍の一連の戦いを戊辰戦争といいます。

いや論破して江戸無血開城
1868年